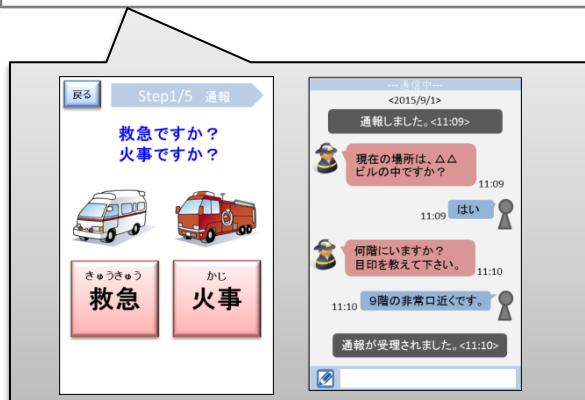
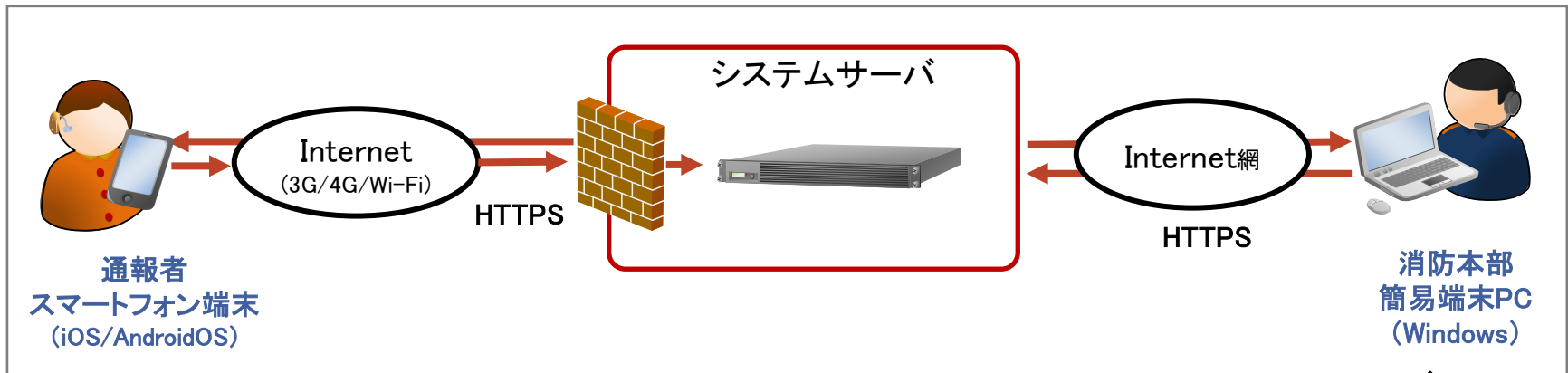


実証実験内容

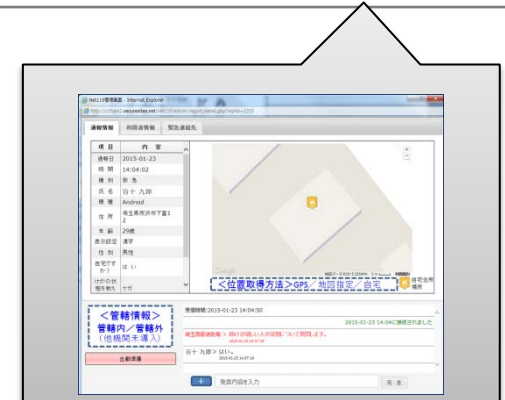
概要①

指定する通報状況に基づき、通報者がスマートフォン端末から模擬通報を行い、その通報内容を消防本部の指令員が簡易端末PCから確認し、出動に必要な情報を収集します。

各通報について通報時間や位置情報、聴取内容等の記録、またユーザビリティに関するヒアリング調査を実施し、後日結果を検証します。

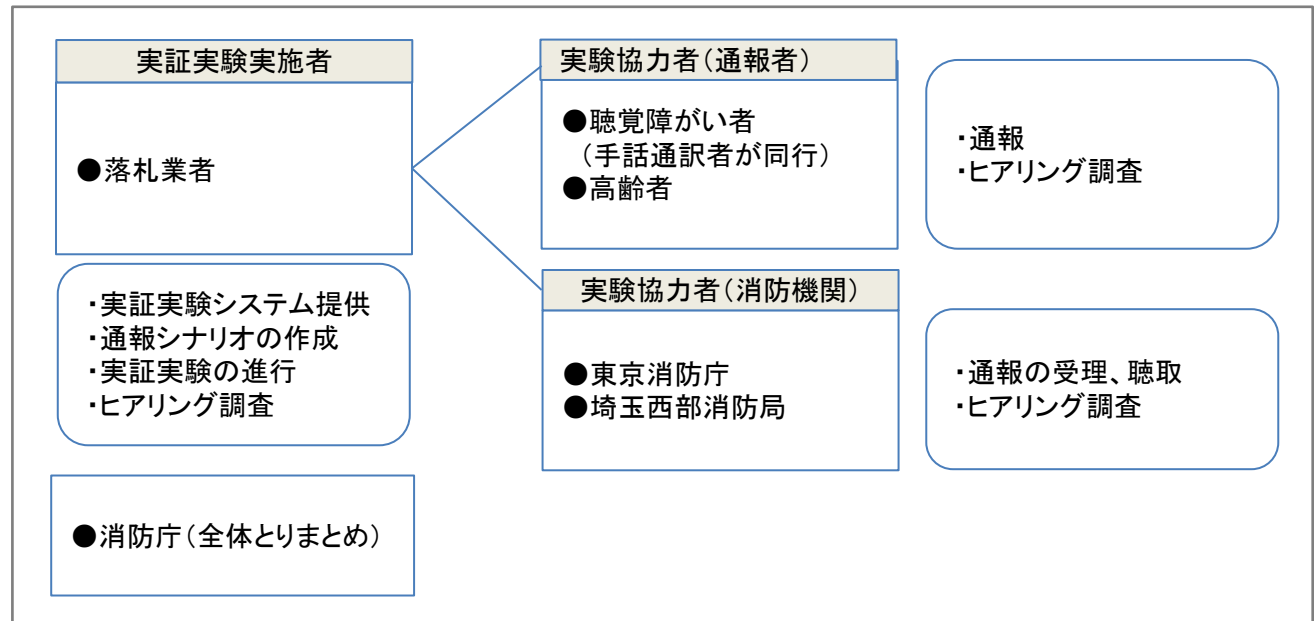


通報者⇔消防本部
通報情報の送受信



概要②

実験予定日 2016年1月頃 2日程度
通報協力者 聴覚障がい者および高齢者 5名程度
(1人1本部あたり2回程度通報実施)
協力消防機関 東京消防庁・埼玉西部消防局
役割分担



通報場所 東京消防庁及び埼玉西部消防局の管轄内において実施
(管轄境界近傍も含む。)

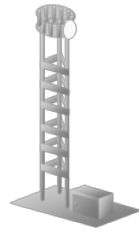
実証実験のイメージ

通報者



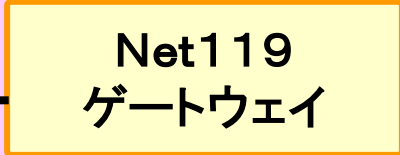
通信事業者

携帯電話
基地局



通報受理事業者

通報受理



位置情報により
管轄振り分け

消防本部

バーチャル
埼玉西部消防局



専用受信端末

バーチャル
東京消防庁



専用受信端末

埼玉西部
消防局管内

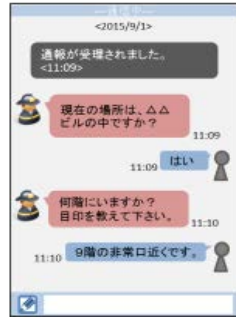
管轄
境界線

東京消防庁管内

振り分け方法

- ①消防本部が管轄する市区町村データベースを作成
- ②通報者の位置情報を取得し、通報者のいる市区町村を特定
- ③通報者のいる市区町村データベースから通報先の消防本部を特定し通報

チャット画面



検証内容

<通報時間>

アプリ方式については、通報開始(アプリ利用開始)～通報終了時(出勤)までの所用時間を計測する。

なお、Web方式の所要時間については、サーバに疑似サイトを作成し、(疑似サイトまでに要する時間×画面数)により測定する。

<位置情報①>

スマートフォン画面上および簡易端末PC上に初期表示される通報位置と実際の通報地点との誤差を確認する。

<位置情報②>

システムサーバ上に記録した通報中の位置情報(場所、精度)の変化(※)から、Net119通報における位置情報の取得方法、消防本部のPC端末において通報位置の特定に有用なインターフェース画面等について検証する

(※)GPS測位またはネットワーク測位は、スマートフォンアプリによって通報中に複数回取得され、通常その精度は時間の経過とともにより正確なものへと変化する。

<管轄消防本部の振り分け>

位置情報により、市町村データベースから管轄消防本部に振り分けられることを検証する。

通報シナリオ(案)

以下の通報パターンについて、通報者へ通報前提条件を伝え、通報していただく。
(協力者等の都合により通報パターンの数は調整する場合あり)

通報パターン	種別	通報者	通報端末	通報場所	傷病者	通報状況
1	救急	聴覚障がい者	iOS	屋外	自分	右わき腹に激痛、意識はあるが歩行困難
2		高齢者	AndroidOS	屋外	自分	頭がズキズキ痛む
3		聴覚障がい者	AndroidOS	屋外	自分	階段から転落し、右足を骨折
4		高齢者	iOS	屋外	第三者	女性がうつ伏せに倒れている
5	火事	聴覚障がい者	AndroidOS	屋外	第三者	一般住宅の窓から白い煙が出ている
6		高齢者	AndroidOS	自宅	自分	居住している木造アパートのガスコンロから可燃物に引火
7		聴覚障がい者	iOS	屋外	-	公園の公衆トイレでトイレットペーパーが燃えている